［認知症対応型共同生活介護用］

1. 調査報告概要表

作成日　2008年1月21日

【評価実施概要】

事業所番号	4771000066
法人名	社会福祉法人　千寿会
事業所名	グループホーム寿
所在地	沖縄県糸満市真栄里323番地 （電　話）098－992－5375

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4－373－1
訪問調査日	平成20年1月15日

【情報提供票より】（平成19　年　12　月17　日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成12　年4　月　1　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　人
職員数	12	常勤　8人、非常勤　4人、　常勤換算　7.08人

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリートブロック造り陸屋根平屋建て
	1 階建ての　階　～　1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	30,000　円		その他の経費（月額）	円
敷　金	有（　円）		■　無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） ■無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	250　円	昼食	400　円
	夕食	250　円	おやつ	100　円
	または1日当たり　円			

（4）利用者の概要（12月17日現在）

利用者人数		9 名	男性	2 名	女性　7 名
要介護1		5　名	要介護2	1　名	
要介護3		2　名	要介護4	1　名	
要介護5		名	要支援2	名	
年齢	平均	85 歳	最低	59 歳	最高　98 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人　勝連病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い丘上にあるグループホーム寿は花と緑に囲まれ、ゆったりと時が流れている。創設以来ひたむきに入居者へのサービスの質の向上を目指し、創意工夫を重ね、たゆまぬ努力を積み重ねてきた理事長はじめ職員の熱意が強く感じられる。運営推進会議も定着し、討議の中から新たなサービスの提案が出されるなどホームは活気に溢れている。またデイサービスの開始（共用型）で入居者の外出が広がり、日中の活動が更に活き活きしてきた。職員はつねに笑顔で接し、理念のひとつに掲げられている「あるがままを受け入れる」完全受容の精神が細かいところまで行き届いている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回改善課題であったハード面への取り組みはそれほど大きな改善作業は見当たらないが、職員の安全意識が確立され、ハード面をソフト面でカバーする柔軟な体制が敷かれ、それが利用者との関係性を密にすると同時に、安心と安全をよんでいる。トイレドアはカーテンになり車イス利用者にとって所作が容易で日常生活動作の向上に繋がっている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価の取り組みはスタッフ全員に評価表をコピー配布し、各自取り組んだあと会合を持って一つひとつを討議した。事業所全体としての自己評価と各個人の自己評価の問題点が明確になり、改善を促す好機となった。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

2ヶ月に1度確実に行われている。メンバーは家族代表、地域包括支援センター、大学教授、民生委員など多彩な顔ぶれなので活発な意見と提案が出される。前回の運営推進会議では、「逆デイサービス」という斬新なサービス形態が検討され、取り入れるための真剣な討議が続いている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

家族とホームは頻繁に連携が取れていて、安全の確保が図られている事を確認している。ホームは家族会の立ち上げを働きかけ支援しているが、これに対し「会という枠に縛られるより、声がかかれば何時でも応じられる体制にある」との答えでホーム側は全幅の信頼を寄せられている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

運営会議で決定した事案を実行していることの一つに地域連携の一環として、近隣施設にプランターを設置し、入居者が水やりの管理を行っている。また那覇マラソン時には、常連応援団として、沿道で太鼓を打ち鳴らしてランナーを励ます光景はホーム開設時から続いている風物詩となっている。

2. 調 査 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は実行されている。本人の思い、家族の願いを大切にした支援をすることにより、その人らしい地域同様の生活が営まれる。入居者と家族を理解し、家族と切り離すことなく連絡を密に取り合っている。	○	見やすい場所にホームの理念は掲示されているが、地域密着型サービスとしての位置づけを明示し、やっていることが地域に理解してもらえる為にも、掲げた理念に、『地域』という文言をいれてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフは常に理念を意識し、日々の実践に活かしていけるようモチベーションを高めあっている。職員間のチームワークも良く、三線、陶芸、パソコン等各自が自主的に個性を活かした理念の実践に取組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年間行事、誕生会等で地域ボランティア、老人クラブ、幼稚園児たちとの交流の他に、ふもとの集落に出かけて、あちらのデイサービスに参加したり、招いたりして良好なつきあいをしている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を取り組むことにより自分たちの行っていることが各項目においてどれだけ自覚されているか、支援体制の体系や自立支援のためのケアなど、その大事さと意義を改めて知った。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議で提案された「こんなときどうするかい（会）」は、職員が講師になりＱ＆Ａ形式の懇談会を地域で持った。　　また「地域（近隣、幼稚園）にホームで育てた花プランターを置かせてもらう」ことなど定期的に水やりに出かけ交流が継続している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村へは積極的に関わっており、現在地域包括センターからも運営推進メンバーになってもらっている。受けるだけでなくこちら側から市町村に出来ることを積極的に提案することにより形だけでなく中身まで関わっていけるよう努力をしている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族連絡を担当制にしている。薬、日常連絡、報告、ケアプラン等も含めて関わり、更に職員間の連絡帳で申し送りして全体が把握できるようになっている。定期的かつ個人的訪問や報告等は活発に行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置はあるが、ほとんど利用がない。要望等はミーティングへの参加、或いは訪問時に受けられるようホーム側から、気軽に声かけをしている。その他3ヶ月に1度の必須訪問も行われており、関わりの中で家族の声を拾い上げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開設時からの職員が複数おり、又ここ2年は全く異動がない。「口出しをせず信じて静かに見守るから試みはどんどんチャレンジしてほしい」という管理者の理解により職員は大らかな気持ちで、日々自己研鑽に努めている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の研修には積極的であり、研修の計画や参加者は偏りがないよう主任が調整している。対外的な研修は1人で行く回数が年に1度となるので、研修報告をミーティング時に報告してもらい、研修内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は沖縄県GH連絡会の創設者なので、同業者との交流や連携活動、情報交換や施設見学など率先して行われている。連絡会の広報誌発行元は当ホームになっており、「ことぶきホーム便り」の発行と合わせて職員は早い情報を共有している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	当ホームへの利用希望者は、地域の人たちからの前知識を持っていたり、紹介等なので、納得が早い。本人が自己決定し、暫く住んでみて共同生活に困難があると判断した場合には家族と話し合いをもち、他機関の社会資源を紹介している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	或る行動で自主的に手を貸してくれたとき職員は感謝の気持ちを素直にあらわしてる。感謝を表現したあとの作業はかなりスムーズで笑顔が見える。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各個人のアセスメントが活かされている。月定例のミーティングには家族を呼んでいる。そこであがった家族の希望やニーズを検討してケアプランを立てている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	スタッフ全員で利用者の気づきを出し合い、本人に適したケアプランかどうかを家族も交えて討議し具現化している。その人の生活暦をアセスメントから取って連動した介護計画が立てられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的モニタリングのほかに遂行状況などで緊急性が見られたり必要があれば月途中でも家族と話し合い見直しを行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービス利用者がショートステイを希望するときは対応している。帰宅願望の強い入居者に対し家族と連絡を取りながら必要であれば家へお連れするが、大体は職員の機転と技術力で落着している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康チェック表の中に、かかりつけ医の受診記録が在り、適切な医療が継続して受けられるよう支援している。また入居者がかかりつけ医で病院受診するときは記録している日常状態の情報をコピーして主治医に届けるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期もホームで過ごしたいと希望する本人・家族もあり、医療連携体制を連絡調整中である。	○	受入れ対制に取り組みながらも、今出来ることはなにか、を考えて学習を開始してみてはどうか。倫理、終末期の人に対する心理や状態、家族ケアを理解し、理念の1つである「愛」について、職員の心の持ち様など事前準備として学びを深めてほしい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	時に言葉かけが荒いときもあるが、その場の状況や利用者の様子によって状況や緩急をわきまえて行動している。更に、向上に向けて学習していく。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	徘徊が多く落ち着かない入居者に対し朝昼問わず一緒に行動している。他の入居者においても、その人らしい暮らしを支援しており、時に個食を好む入居者にはスタッフが付き合って別の場で食事を取ることもある。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けを積極的に手伝う。入居者が作った陶器お碗で食事をする。職員と利用者全員がテーブルを囲んで和やかな食事風景が展開されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴に対する希望は聞いており、何時でも入っていい旨を告げている。今のところ利用者の入浴希望時間が日中で済まされている。風呂嫌いがながく続いた場合には家族に協力してもらい一緒に入浴している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	かつて覚えた仕事からくる能力が発揮しやすいよう、或いは思い起こしてもらえるよう道具等を揃えてある。その人がさりげなく活動できるように自然体で活動の場を用意している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週3回デイサービスのある日は、利用者の送迎時に入居者を車に乗せて地域や戸外を周り関わりが持てるような閉じこもらない支援を行っている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は掛けていない。職員は入居者のパターンを周知しており、帰宅に向かってホーム坂を下りるときなど先回りしてさりげなく接し、一緒にホームへ戻る。鍵を掛けないぶん職員のアンテナはいつも感度をよくしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームは集落と離れているため災害対策が緊急の課題となっているが、現在は火災報知機の操作や電話の掛け方、ベルがなった時の対応確認となっている。	○	まずは緊急時マニュアルを備えてほしい。既存のマニュアルを入手して事業所の状態と照合しあいながら、職員一致した行動が取れるよう急がれる。入居者に不安をあたえない緊急対応の方法を討議し、勉強会や研修会を多く持ってほしい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の状態を観察記録しており一人ひとりに合わせた取り組みが行われている。自家菜園からの新鮮な食材は食卓に彩を添え、献立もバラエティーに富んで、バランスよく栄養が摂取されている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい共用空間はホームの内外に設えており利用者が夫々に寛げるよう環境の整備に配慮している。リビングには全員参加で製作した数々の共同作品がかざられ、テーブルの野の花など季節を楽しむ工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人の好む雰囲気を尊重している。部屋の配置も本人仕様の物品も本人に任せつつ、支援の必要な入居者には状態に合わせた配慮をしている。		